

## 抗 ラット Autotaxin/ENPP2 ポリクローナル抗体

オートタキシンは、メラノーマ細胞から分泌される細胞遊走促進因子として同定されたタンパク質であり、ENPP (Ectonucleotide pyrophosphatase / phosphodiesterase) ファミリーに属します。オートタキシンは、Lysophospholipase D 活性を持ち、多彩な生理活性を示す脂質メディエーター、リゾホスファチジン酸 (LPA) 及びスフィンゴシン1-リン酸 (S1P) を細胞外で産生するシグナル分子であると考えられています。またその作用は、細胞の増殖・細胞移動の活性化・血管新生および神経突起の退縮に関わることが報告されています。

オートタキシンが癌細胞で高く発現し、高増殖能、高運動能の獲得が癌の悪性度を規定する因子と考えられていることから、癌の悪性化と関連する分子として注目を集めています。

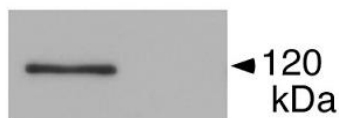
抗 Autotaxin 抗体を下記 2 種発売しております。

KM105: C 末端領域に特異的に反応

KM106: N 末端領域に特異的に反応

容量	25 $\mu$ g (250 $\mu$ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.1mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2%ブロッケーアス(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]
保管方法	-20 $^{\circ}$ C 以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 $^{\circ}$ C で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	Autotaxin/ENPP2 の N 末端ペプチドを免疫したウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティカラムにて精製
使用濃度	ウェスタンブロットティング:0.5 $\mu$ g/ml

(1) (2)



### ウェスタンブロットティング

Sample : COS7 細胞 培養上清

(1) Autotaxin 導入細胞

(2) コントロール細胞

提供 :

筑波大学大学院人間総合科学研究科

榎 正幸 先生

小池 誠一 先生

## 抗 ラット Autotaxin/ENPP2 ポリクローナル抗体

### 【参考文献】

1. Koike S. et al. :  
The N-terminal hydrophobic sequence of autotaxin (ENPP2) functions as a signal peptide.  
Genes Cells. 2006 Feb;11(2):133-42. \*
2. Sato K. et al. :  
Identification of autotaxin as a neurite retraction-inducing factor of PC12 cells in cerebrospinal fluid and its possible sources.  
J Neurochem. 2005 Feb;92(4):904-14.
3. Tanaka M. et al. :  
Prostatic acid phosphatase degrades lysophosphatidic acid in seminal plasma.  
FEBS Lett. 2004 Jul 30;571(1-3):197-204.
4. Stefan C. et al. :  
NPP-type ectophosphodiesterases: unity in diversity.  
Trends Biochem Sci. 2005 Oct;30(10):542-50.

\* 本抗体の使用例が掲載されています。

製造元

 **株式会社トランスジェニック**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp